

[資料]

## 明星大学創設の意図と教育理念(3)

—創設第2年度、1965(昭和40)年度の資料—

【資料1】

『明星大学 理工学部 人文学部 =1965=』(「大学案内」・学生募集パンフレット、項目抜粋)

表紙

明星大学

理工学部

物 理 学 科

化 学 科

機 械 工 学 科

電 気 工 学 科

土 木 工 学 科

人文学部

英語・英文学科

社 会 学 科

心理・教育学科

=1965=

めいせい  
明星学苑の沿革(抜粋)

＝前半は前年度(1964年度版、本稿(2)所収)と同文のため省略＝

昭和二十六年、私学法の施行に伴い、学校法人明星学苑と組織を変更し今日に至っているが、昭和三十八年学苑創立四十周年の記念の年を迎えるに当り、私学独自の一貫教育の完成をめざし、将来の総合大学の一環として、まず国家的要請にそうべく、大学創設計画が結実、文部省の認可を経て昭和三十九年四月明星大学(四年制)理工学部(物理学・化学・機械工学・電気工学・土木工学の五学科)が開設された。更に昭和四十年四月より人文学部(英語英文学・社会学・心理教育学の三学科)を開設する運びとなっている。

明星大学 理工学部・人文学部の設立について(抜粋)

明星学苑理事長 児玉 九十  
明星大学学長

＝前半・後半末尾は前年度(1964年度版、本稿(2)所収)と同文のため省略＝

次に、日本の今後の発展のためには、人文科学並びに社会科学系学問の側面よりの融合協力が是非とも必要であります。また産業や文化、政治経済を進展させるには、何と言っても「人間」形成、人間の相互理解の問題が社会進歩の原動力である事実を無視できません。新たに今度人文学部の「英語英文学・社会学・心理教育学」の三学科の開設を目指し、広く世界的視野のもとに人間形成、人間探究、人間相互理解の道を開拓しようとする努力も、以上のような理由に基くのであります。

## 本学の特徴

＝前年度(1964年度版、本稿(2)所収)と全文同文のため省略＝

### 人文学部

#### 英語英文学科

英語・英文学科は、英米文学、英米語学を専攻する学科である。勿論アカデミックな英米の文学、語学は最高学府として十分に教授し研究するのであるけれども、時代の要求として卒業生が会社、官庁、放送、学校、マスコミなど諸方面に就職するものが多い現状を考えると、本学は英語すなわち英語の技能的方面も十分に訓練して、英語を話すこと、聞くこと、読むこと、書くことなどの能力をも確りと身につけさせたい。故に名称もとくに英語英文学科としたわけである。

学生の学習活動の単位をできるだけ小人数のグループ<sup>(ママ)</sup>としたい。従来の大学の弊害は大学がマスプロの場と化して学生と教授との人間的接触や学科の個別的指導が甚だ不十分であった。本学は建学の精神から学生の天分の開発と個性の伸長を要旨とした人造りを目標とする。また、英語の実際生活に必要な技能的側面をも重視する。

授業のクラスの人数を可能的に少くする。必修単位の数も過重にならない限り多くし、一般教養の英語はもちろんドイツ語またはフランス語を必修し第三学年まで授業を設ける。個別指導の面を強化するためセミナーの制度を設けてtutor systemの精神を貫くことにし、専任教員がこれを担当する。これは学科の指導のみならず生活相談にも応じて師弟の接触を緊密にする。

学科内容も英米文学、英米語学、英語の技能面の他に文学概論、西洋思想史、美学概論、国文(語)学、独文(語)学、仏文(語)学、言語学概論その他の関連科目の講義を開き、また英米事情の講義を設けて世界を広く、深く、新しくみる視野を<sup>(ママ)</sup>養はせることとする。卒業論文は之を重視する。生涯を通じて、研究と表現の一つのモニュメントになるのであるから、その作成には真剣に努力させたい。論文は英語で発表させ、その研究と作成の指導にはセミナーを利用させたい。

#### 社会学科

我国における社会学の研究は新しいものではないが、然し戦後急速に発展を遂げた学問の<sup>(ママ)</sup>一である。それは近時における我国の社会情勢の急速な発展と変化とに即応している。現代社会はその発展に伴って、いろいろ重要な問題を発生した。而して社会学はそれらの諸問題を一方面からだけではなく、他の諸現象との係わりにおいて、又歴史的発展の連がりにおいて、適切な解明をなすことをその任務とし、今日社会から多大の期待をかけられている。

抑々社会は人間のあらゆる活動の舞台であって、人間は不断にそれからいろいろの影響や規制を受けている。人間の形成は、実にこの社会を通ずることによってのみ達成せられる。社会学の目的はかくも重大なこの社会というものを学問的に研究し、その根本的理論を明かにし、その諸問題を討究することを目的としている。社会学科はかような社会の根本的研究をなすとともに、更に学生が卒業後、社会有用の材として社会に迎えられ、応用的實際的方面にもすぐれた活動をなし得るよう、特色ある学科課程を編成することに配慮している。

即ちわれわれの社会学科は、根本的には社会の基礎理論の研究解明に努力するとともに、社会調査や社会統計の学習によって、社会の実態を実証的に討究する方法を修得し、更に現代社会の重要問題である都市や産業や、大衆社会や社会福祉等の現実的諸問題を研究することに特別に留意している。

要するに我々の念願とするところは、かような確固たる学問的知見を基礎とする、道義心の強い人間、世界に信頼される日本人という本学の精神の下に、特色ある社会学科を成就し、以って学あり才能あり人格の優れた明星大学独特の人物を養成して社会に貢献したいと思っているのである。

#### 心理教育学科

心理教育学科は、心理学の領域と教育学の領域の融合した形の学科である。両専攻とも人間の意識や行動、発達や環境を研究対象とした学問であり、理論研究の面でも実践指導の点でも共通した課題が非常に多い。したがって本学科では両者の共同協力によって、教育上研究上の成果をあげるよう期待できる。授業科目の上でも、それぞれの主要専攻科目を設けてはいるが、両部門に共通して選択できる関連科目を豊富に開講しているのもそのためである。

心理学専攻の学科内容は概論、心理学方法論、実験心理、社会心理を初めとして、応用心理、発達心理、児童心理、異常心理などの学科目が設けられている。更に実験、演習など学問的研究指導の点でも、教授者はそれぞれの専門科目担当者として第一線の研究者、著名の学者で編成されているのは本専攻の誇りとするところである。

基礎的研究を重視する反面、応用的臨床的研究にも十分な成果をあげられるように組織されている。たとえば、知能テスト・性格検査・職業能力測定などをはじめ、学校・官庁・会社・産業企業体におけるグループダイナミクス(人間工学)の技術、カウンセラーシステム(相談員制度)など解決を迫られている課題が多い。本専攻では将来関心をもたれる新しい研究分野の開拓に相当力をつくす計画である。

教育学専攻の学科内容は原論・教育方法学・教育史・教育心理・教育社会学・教育行財政を初めとして、視聴覚教育・教育哲学・教育課程論及びセミナーなど設けられている。また特に関連科目における科学・芸術・道徳・保健・産業技術に関する教育研究論は、永年に亘る経験と学識を生かされての専門学者のユニークな講座であって、このように揃った内容は恐らく他大学に類をみない偉容であるといっても過言ではない。もちろん心理的・社会的及び哲学的側面からの基礎的・理論的研究を重視するが、実験的応用的方面にも力を注ぐ予定である。

教育と言えば、学校や教師を連想させるが、それだけでなく教育は人間の生活する処、生産活動する処、随処時に現象している事実である。学校でも家庭でも、また広い社会環境の中に営まれる社会の根本機能である。本専攻では、就学前教育(幼児教育)・ギフテッドチルドレン(才能児教育)・グループリーダー・トレーニング(集団指導者の教育)産業企業体内の教育(現場教育を含む)・社会保健体育・レジャーの有効指導などの問題、さらに放送・新聞・映画などマス・コミュニケーションの教育的役割の問題など、今後の躍進する産業社会の要請に応ずる教育再編成の立場からの研究・調査も考慮されている。

#### 【資料2—①】

『体験教育』 第272号 1965(昭和40)年1月20日

### 「明星大学に注目の人文学部を新設」

今春四月から、人文学部が明星大学に誕生する。すでに人文学部専用校舎の建築工事も着々と進んでいる。新設の人文学部は、三つの学科を内容とする。

**英語英文学科**

**社会学科**

＝3学科の内容紹介は上掲【資料1】内容を要約したもので、重複するので省略＝

**心理教育学科**

以上の三学科を持った人文学部が開設され、個性を尊重したヒューマンタッチの教育が行なわれれば、そこにおける学生は、社会のためになる、そして社会の要望に応える人間になりうるであろう。明星大学の理工学部が昨春誕生して、そして期待をうらぎることなく前進しているように、人文学部も非常な希望をもって迎えられている。

#### 【資料2—②】

『体験教育』 第274号 1965(昭和40)年4月26日

### 「明星大学(人文学部 理工学部)入学式」

四月十一日(日) あたかも桜の満開が祝福するかの如きよき日に人文学部は第一回の、理工学部は第二回目の入学式が盛大に挙行され、当日は来賓の他、入学生の父兄の多数の臨席が更に花を添えられたのであったが、式次第中の学事報告を掲載し報告に代えることとする。

**学事報告**

最初に明星大学の設立母胎である学校法人明星学苑について申し述べますと、その創立は遠く大正十二年にさかのぼり、今年で丁度四十二周年に当たります。

只今、東京都府中市に二万二千坪の校地を有し、幼稚園より高校に至る園児、児童、生徒数四千五百名<sup>(ママ)</sup>。教職員数二百三十名に及ぶ一大総合学苑を形成しております。

この学苑関係者の長い間の念願でありました明星大学の創設は、昭和三十九年春、文部大臣によって認可され、まず理工学部(物理学科・化学科・機械工学科・電気工学科・土木工学科)の五学科をもって発足いたしました。

昨年四月二十九日、第一回の入学式を挙げて以来、公私ともに関係各位の絶大な御援助により、また学長を初め教授各位の熱心な指導の下に、順調な経過をたどり、教育内容の充実並びに施設の拡充に努め今日に至っております。

只今、大学の校地は四万二千坪、校舎は昨年春、第一期工事二千二百坪を完成し、第二期工事の二千三百坪の建築も御覧の通り、完成を間近に控えております。

続いて今年秋には更に第三期工事千六百坪を以て当初の計画を完遂する予定であります。

今年は、昨年設立の理工学部に加えて、新たに申請いたしました人文学部(英語英文学科・社会学科・心理教育学科)の増設が認可され、文字通り総合大学としての力強い第一歩を踏み出した記念すべき年であります。

次に人文学部の設立の経過について簡単に申し述べます。

三十九年七月末の法人理事会において、その学部増設が決議され、九月二十九日に設置認可の申請書を文部省に提出いたしました。

十一月八日、人文学部設置審査のため文部省大学設置審議会の現地審査が時子山早稲田大学常務理事、高橋一ツ橋大学々長ほか五名の委員によって行われ、学科内容、機械器具、図書、および教授陣容について広汎な審査がなされました。

続いて十二月二日には、私立大学審議会の代表として、古田日本大学理事長以下三名の委員による現地視察と私学経営の内容についての詳細な審査が行われました。

さらに十二月中旬、文部省の大学設置審議会および私立大学審議会によって明星大学人文学部の認可の件が決議され、文部大臣に答申されました。

その結果につきましては、昨年十二月二十日の各新聞紙上に認可決定の発表がありましたが、今年一月二十五日付にて正式に文部大臣による認可書が交付された次第であります。

また今年初頭よりの学生募集には全国各地遠く東南アジア等から多数の応募者がありましたが、厳正かつ慎重な試験をいたしまして、

理工学部 四九五名

人文学部 二六九名

の合格者を得、本日ここに合格者たる学生諸子、並びに御父兄各位、来賓各位の御臨席の下に人文学部第一回の盛大な入学式(理工学部第二回)を挙げることにいたしましたことは、誠に御同慶に堪えない次第でございます、関係各位の御尽力に対し衷心より感謝申し上げます。

### 【資料2-③】

『体験教育』 第276号 1965(昭和40)年6月20日

## 「明星大学見学記」 高一 佐藤良子・板橋良江・柴田みち 新藤久美子・西岡美得子

私たち高校一年生の多摩動物公園、明星大学方面への遠足日、五月二十一日は、前日の雨模様とは打って変わって、青空がどこまでも広がり、初夏を思わせるような日であった。若葉は露を受け、林の中に入ると、しっとりとした空気が流れていた。

私たちは多摩動物公園を見学後、多摩丘陵の一角に、誇りある明星の伝統を受け継いだ、明星大学へと向った。動物園をさんざん歩き廻ってもうかなり疲れていた私たちにとって、大学までの傾斜の急な坂を折からの強風をまともに受けながら登るのは、かなり骨の折れることだった。フウフウ言いながら、やっとたどり着いた大学は、まだ庭もなく、四階建の校舎だけが建っているにすぎなかったが、さすがにその玄関は、大学の風格を写し出すかのような立派さで、女子部の玄関とは比べ物にならなかった。

私たちは大講義室に案内され、そこで待望の昼食をとった後、いただいた大学案内のパンフレットを見ながら、

副学長先生の明星大学についてのお話をうかがった。副学長先生とは、もっといかめしい感じの先生なのだと思います。最初のうちは緊張していたのだが、その面白いお話しぶりにいつの間にか緊張もほぐれ皆楽しくお話をうかがった。そのお話しによって、秋には更に新しい校舎ができ、庭にも芝を植え、もっと立派な美しい大学になることが分かった。又、どのような学科があり、どのように優れた先生方が大勢いらっしゃるかということも分かった。

お話しの後、先生方の御案内により、構内を見学させていただいた。学生課を通り、まず学長室に入った。非常に明るく、展望がよく、大学の学長室は、こんなにも立派であるとは思ってもよらないほどの部屋であった。それから大きな机と椅子が整然と並べられた会議室を通り、授業中の静かな教室の間をぬって化学実験室へ入った。ここでは授業前らしく、多くの器具と、化学室独特の薬品のまざり合った臭いの中で白衣を着た先生が黒板に、実験方法を書いていらしたが、それを横目でちらっと見ると、その文字の中にもよくは解らないながらも、大学での授業とはこのようなものなのだということが、何とはなしに感じ取れたような気がした。それから、私たちは屋上に上った。その途中で私たちは、授業が終って、がやがや話しながら下りて来る学生たちとすれ違ったが、その中には私たちの先輩の顔も、ちらほらと見うけられた。屋上は、とても風が強くてゆっくり景色を楽しむには程遠い状態ではあったけれど、多摩の大自然を一望に見渡すことができた。又、これから建つ敷地の地ならしをしている処も見うけられ「あそこに新しく建つね。」「あそこの庭が、緑になったらきれいでしょね。」などと、さっきの副学長先生のお話しを、さっそくここで再現している人もいた。

構内を見学し終って、私たちが一番強く印象づけられたことは、大学をとりまく、自然的環境の素晴らしさと、その中に建った大学の教室、そしてそこに学ぶ学生たち、その他何もかも総てが新鮮な感じで、新しい息吹にもえているということだった。又、見渡したところ、床にゴミ一つ落ちていない。こんなところにも明星精神の一片が見られるような気がした。

私たちは、大学の組織のほんの一部を見学したに過ぎない。しかし、数時間前に大学に向って登って来た坂道を今度は下りながら、その時の自分と、今の自分とでは少し違っているような感じがしていた。それはきっと、今までより一層、大学へ行きたいという気持ちが強く湧いてきたせいではないかと思う。明星大学を見学する前は大学というものに対して、ただ漠然とした憧れのようなものを抱いていたに過ぎなかったが、大学でいろいろお話をうかがったり、構内の様子を実際にこの服<sup>(マフ)</sup>で見たりしたことによって、以前よりもはるかにはっきりとした大学像というものを、つかみとり、一歩進んだかたちで大学の意義、実体を会得出来たことは、今度の遠足の大きな収穫であったと思う。

終りに、御多忙の中を、いろいろと御案内下さった、副学長先生をはじめ、大学諸先生に対して、心よりお礼を申し上げます。

### 【資料3】

#### 『履修の手引 一昭和40年度— 明星大学人文学部』(抜粋)

##### I. 人文学部の教育目的

人文学部は、日本の今後の発展の為には人文科学並びに社会科学系学問の側面よりの融合協力が是非とも必要である、という考え方に基づいて設置されたものである。産業や文化、政治・経済を進歩発展させる為には、なんといっても人間形成、人間の相互理解がその原動力である事実を無視でき得まい。即ち、本年度より創設された人文学部は広く世界的視野のもとに人間形成、人間探究、人間相互理解の道を開拓せんとする理想を持った学部である。このような広汎な理想内容を包含している人文学部の各学科は、それぞれ本学独自の特色ある教育目標を有しているが、人文学部全体の目的とするところは、広い視野に基礎を置いた確固たる学問的知見と強い道義心を持ち、しかも、躍進する実社会の要請に十分に適應できる技能と資質を備えた人物の養成にあることを銘記せねばならない。

##### II. 人文学部の組織と性格

人文学部は、英語英文学科、社会学科、心理教育学科の三学科によって構成されている。

英語英文学科は英米文学・英米語学を専攻する学科である。アカデミックな英米の文学・語学の研究を行なうことは勿論、英語の実際生活に役立つ技能的側面をも重視する。他に文学概論、西洋思想史、英米事情などの講義

の履修によって、世界を広く深く、新しくみる視野を養うようにする。

社会学科においては、社会の機構・組織、その機能の基礎的・理論的研究解明を十分に行なって学問的知見を養い、これを基礎として社会調査・社会統計など社会の実態を実証的に討究する方法を修得する。さらに、現代社会の重要問題である都市や産業、大衆社会や社会福祉等の現実的問題を研究する。

心理教育学科は心理学専攻と教育学専攻に分かれるが、両専攻とも人間の意識や行動、発達や環境の問題を共通の研究対象としている。

心理学専攻では、基礎的研究を重視する反面、応用的臨床的研究すなわち、各種テスト・測定の方法・技術の習得なども行なう。

教育学専攻では、教育に関する心理的・社会的・哲学的側面からの基礎的・理論的研究を重視する一方、実験的・応用的方面に力を注ぐ。

### III. 学習案内

#### 1. 学士号

人文学部卒業生に与えられる学士号は「文学士」である。

#### 2. 在学年数 =前年度(1964年度版、本稿(2)所収)と同文のため省略=

#### 3. 授業科目と単位数 =略=

#### 4. 授業科目の類別及び卒業に必要な単位数

本学の全授業科目は、その内容によって、一般教育科目・外国語科目・保健体育科目・専門教育科目の各部門に分けられている。

列挙すれば次の通りである。

(1)一般教育科目 人文科学系列 社会科学系列 自然科学系列

(2)外国語科目(二カ国語必修)

(3)保健体育科目 講義 実技

(4)専門教育科目 必修科目 選択科目

(注)教育職員免許状の取得を希望する者は、別途に授業科目(教職課程科目)の履修が必要である。

卒業の為に各部門別に必要な単位数は、第二表の通りである。

第 二 表

部 門	取得すべき単位数
一般教育科目	36単位以上
外国語科目	20単位
保健体育科目	6単位
計	62単位以上
専門教育科目(必須)	} 80単位以上
〃 (選択)	
合 計	142単位以上

#### 5. 授業科目履修要領

(1)一般注意事項 =略=

(2)一般教育科目 =略=

(3)外国語科目 =略=

(4)保健体育科目 =略=

(5)専門教育科目 =略=

第三表 年次別授業科目履修基準

第一年次

部 門 別	種 別	設 置 科 目 ( )内は単位数	履 修 基 準
一般教育科目	人文科学系列	哲学(4) 史学(4) 文学(4) 美学(4) 教育学(4)	2科目8単位以上
	社会科学系列	法学(4) 社会学(4) 政治学(4) 経済学(4) 心理学(4) 統計学(4)	2科目8単位以上
	自然科学系列	数学(4) 物理学(4) 化学(4) 生物学(4) 地学(4)	2科目8単位以上
外国語科目	英 語	英語E(2) 英語S(2)	4単位
	ド イ ツ 語	ドイツ語G(2) ドイツ語S(2)	いずれか一カ国語
	フ ラ ンス 語	フランス語G(2) フランス語R(2)	
保健体育科目		講義(2) 実技(1)	3単位
専門教育科目	(英語英文学科)	英文法Ⅰ(2) 英作文Ⅰ(2) 英会話Ⅰ(2)	(6単位)

第二年次

一般教育科目	人文科学系列	哲学(4) 史学(4) 文学(4) 美学(4) 教育学(4)	1科目4単位以上
	社会科学系列	法学(4) 社会学(4) 政治学(4) 経済学(4) 心理学(4) 統計学(4)	1科目4単位以上
	自然科学系列	数学(4) 物理学(4) 化学(4) 生物学(4) 地学(4)	1科目4単位以上
外国語科目	英 語	英語E(2) 英語S(2)	4単位
	ド イ ツ 語	ドイツ語G(2) ドイツ語S(2)	いずれか一カ国語
	フ ラ ンス 語	フランス語G(2) フランス語R(2)	
保健体育科目		実技(1)	1単位
専門教育科目		(第四表 参照)	20単位以上

第三年次

外国語科目		英語(4) ドイツ語(4) フランス語(4)	いずれか一カ国語 4単位
保健体育科目		実技(1)	1単位
専門教育科目			28単位以上

第四年次

保健体育科目		実技(1)	1単位
専門教育科目		(第四表 参照)	24単位以上
卒業研究			8単位

注意 教育職員免許状の授与を受けようとするものは、一般教育科目・人文科学系列「哲学(4)」・同社会科学系列「法学(4)」を必修すること。

第四表 各学科別専門教育科目(第二年次以降)

英語英文学科

科目名	単位数
英米文学概説	4
英文学史	4
米文学史	4
英米文学演習Ⅰ	2
英米文学演習Ⅱ	2
英米文学演習Ⅲ	2
英米文学特殊講義	4
英米語学概論	4
英米語学発達史	4
英語学演習	2
英文法Ⅱ	2
英作文Ⅱ	2
英会話Ⅱ	2
時事英語	2
セミナーⅠ	2
セミナーⅡ	2
ラテン語	2
卒業研究	8
言語学概論	4
文学概論	4
英語音声学	4
西洋思想史	4
ギリシャ語	2
国文(語)学	4
独文(語)学	4
仏文(語)学	4
美学概論	4
西洋美術史	4
英米事情	4

社会学科

科目名	単位数
社会学概論	4
社会学特殊講義Ⅰ	4
社会学特殊講義Ⅱ	4
社会学史概説	4
社会学演習Ⅰ	2
社会学演習Ⅱ	2
社会学セミナー	2
社会調査法	4
社会調査演習	2
社会統計	4
統計学	4
道德社会学	4
都市農村社会学	4
社会哲学概論	4
社会事業概説	4
卒業研究	8
産業社会学	4
大衆社会学	4
社会哲学特殊講義	4
社会哲学演習	2
社会史概説	4
社会福祉法	4
労務管理	2
職業指導	2
法思想史	4
西洋思想史	4
教育社会学	4
社会地理学	4
社会心理学	4

心理教育学科

科目名	単位数	科目名	単位数
(心理学専攻)		教育社会調査	4
心理学概論	4	教育学特殊講義Ⅰ	4
実験心理学	4	教育学特殊講義Ⅱ	4
実験心理学特殊講義	4	教育学演習Ⅰ	2
社会心理学	4	教育学演習Ⅱ	2
社会心理学特殊講義	4	卒業研究	8
発達心理学	4	(共通)	
性格心理学	4	心理学概論	4
臨床心理学	4	教育学原論	4
産業心理学	4	教育心理学	4
心理学特殊講義	4	発達心理学	4
心理学実験Ⅰ	2	児童心理学	4
心理学実験Ⅱ	2	産業心理学	4
心理学演習Ⅰ	2	視聴覚教育	4
心理学演習Ⅱ	2	教育哲学	4
卒業研究	8	教育制度	4
(教育学専攻)		教育統計学	4
教育学原論	4	教育社会調査	4
教育課程論	4	科学教育論	4
教育方法学	4	芸術教育論	4
日本教育史	4	道德教育研究	2
西洋教育史	4	保健教育研究	2
教育心理学	4	産業技術教育	4
教育社会学	4		
教育行財政	4		

6. 試験 =略=

7. 授業科目の履修申請手続

- (1) 履修科目の申請 =略=
- (2) 申請方法 =略=
- (3) 申請期間 =略=
- (4) 聴講 =略=

IV. 昭和40年度授業科目 講義要項 =略=

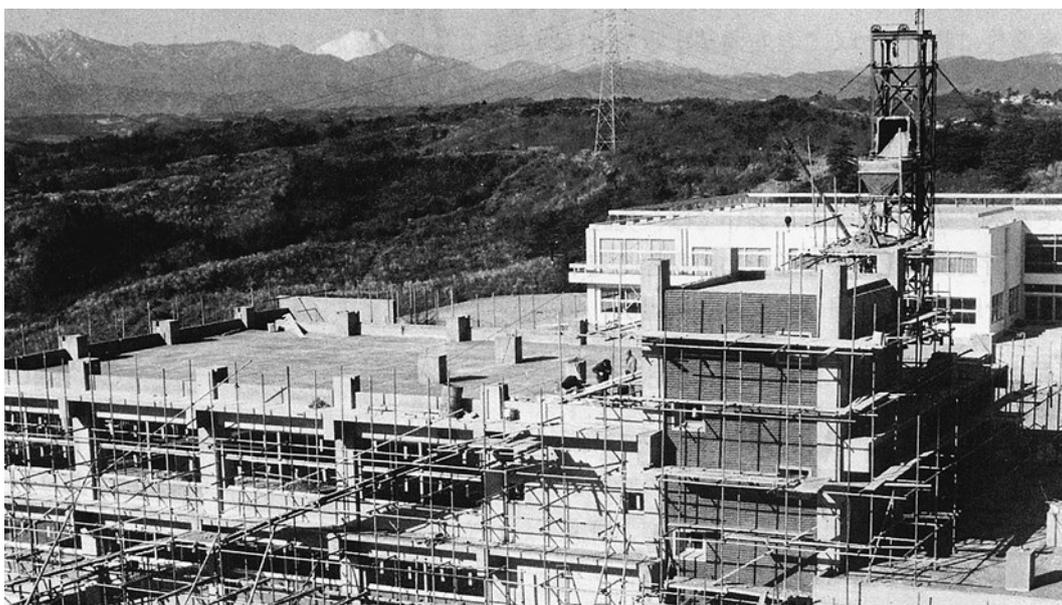
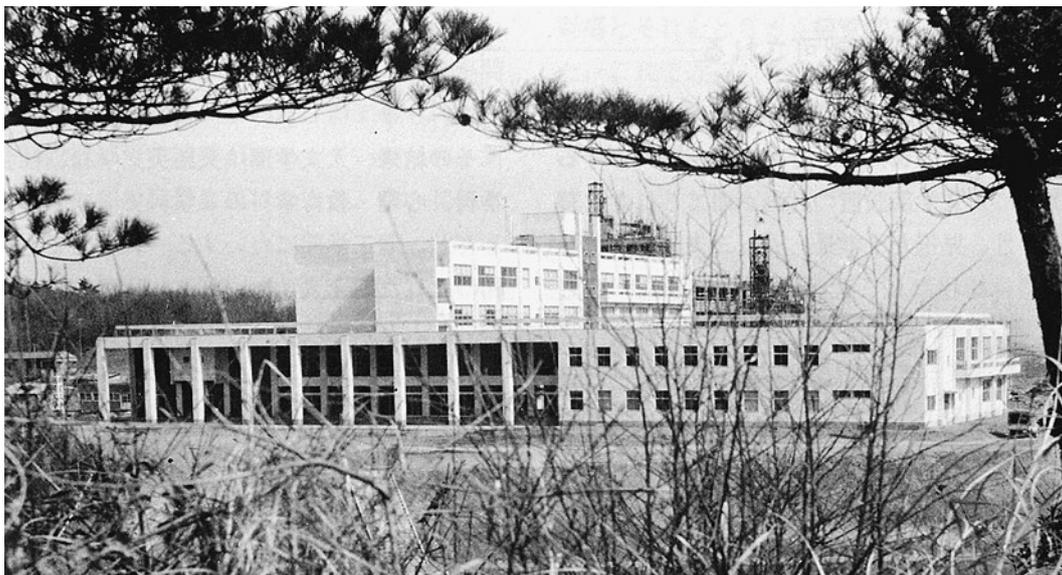
[解題]

## 明星大学創設の意図と教育理念(3) —創設第2年度、1965(昭和40)年度の資料—

解 題

高島 秀樹\*

### 1965(昭和40)年度の明星大学



【上】1965(昭和40)年4月現在竣工していたのは1号館のみであった。

【下】2号館・3号館の建設が進められ、1965(昭和40)年5月竣工と記録されている。

\* 明星大学名誉教授、元人文学部人間社会学科教授・明星教育センター長、教育社会学

## 目次

はじめに

### 1. 掲載資料について

(1)『明星大学 理工学部 人文学部 =1965=』(「大学案内」・学生募集パンフレット)

(2)『体験教育』

(3)『履修の手引 一昭和40年度— 明星大学人文学部』

### 2. 人文学部創設の意図と教育理念

(1)人文学部創設の意図

(2)人文学部の教育理念

おわりに

## はじめに

本稿を含む一連の【資料】【解題】「明星大学創設の意図と教育理念」は、1964(昭和39)年に学校法人明星学苑によって創設された明星大学の創設の意図や経緯、創設時の教育理念について、明星大学明星教育センターが収蔵する資料によって明らかにすることを目的としている<sup>1)</sup>。本稿(3)では、創設第2年度、1965(40)年度の資料を取り上げたが、この年度は人文学部1学部3学科(英語英文学科・社会学科・心理教育学科<sup>2)</sup>)が創設され、明星大学が総合大学としての第一歩を踏み出した年と位置づけられる。

### 1. 掲載資料について

本稿(3)に掲載した資料は次の3種、5点である。

#### (1)『明星大学 理工学部 人文学部 =1965=』(「大学案内」・学生募集パンフレット)

【資料1】『明星大学 理工学部 人文学部 =1965=』は1965(昭和40)年度入学生募集のために、1964(昭和39)年度に発行された大学案内である。人文学部の正式な設置認可は1965(昭和40)年1月25日付であったが、これ以前から学生募集は始まっており、この大学案内も刊行・配布されていたと推測される。「明星学苑の沿革」、「明星大学 理工学部・人文学部の設立について」は前年度と同じ文章に人文学部についての説明を加えたものであり、ここでは書き加えられた部分のみを抜粋して掲載した。「本学の特色」は全文が前年度と同文であることから、掲載を省略した。学科の説明については学科の教育目的や教育内容、教育の特色が記されているので、人文学部3学科についての全文を掲載した。

入学者選考方法については資料として掲載はしなかったが、前年度の入学者選考方法が推薦試験のみであったのに対して、1965(昭和40)年度は推薦入試と一般入試が実施された。推薦入試は1965(昭和40)年1月31日に実施、推薦基準(高校在学中の成績が上位3分の1以内)、提出書類(入学願書・調査書・健康診断書・卒業(見込)証明書・高校長の推薦書と面接によって判定することは前年度と同じであるが、面接試験会場が東京(明星学苑本部)のほか、全国に複数(札幌市(北大)・仙台市(東北大)・名古屋市(名大)・大阪市(大阪大)・福岡市(九大))設けられた点が前年度と異なる<sup>3)</sup>。一般入試は3月19日・20日に実施、筆答に面接、健康診断を加えて総合判定としたが、筆答科目は理工学部は外国語(英語)・数学(数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲより1科目選択)・理科(物理・化学・生物・地学より1科目選択)、人文学部は外国語(英語)・国語(甲)・社会(社会・世界史・日本史・人文地理より1科目選択)であった。試験場所は東京(明星学苑本部)1か所であった<sup>4)</sup>。

#### (2)『体験教育』

学校法人明星学苑の月刊広報紙『体験教育』からは3点の資料を掲載した。

【資料2—①】は第272号(1965(昭和40)年1月刊)に掲載された人文学部創設に関する予告記事である。学科

内容については【資料1】に掲載した各学科の説明を要約したもので、新たな内容を見出すことはできないので掲載を省略し、ここでは冒頭の人文学部創設の予告と末尾の人文学部創設への期待についての記述部分のみを掲載した。

【資料2-②】は第274号(1965(昭和40)年4月刊)に掲載された明星大学第2回(理工学部第2回・人文学部第1回)入学式(4月11日挙行)の報告である。同号には学長告示は掲載されておらず、大学入学式に関する記事はここに掲載したものが全文である。学事報告<sup>5)</sup>では、人文学部創設にいたる経過が説明されていることから全文を掲載した。なお、この年の入学者数は理工学部495名・人文学部269名と記載されている。

【資料2-③】は第276号(1965(昭和40)年6月刊)に掲載された、明星高等学校(女子部)1年生5名連名による明星大学見学の記録・感想である。学校法人・大学としては広報活動の一環としてこのような見学会を開催し、特に人文学部を創設したことから女子生徒を対象として実施したのではないかと推測される。大学創設に関連する生徒の視点からの資料は他に見出すことができず、これまで掲載した資料とは異なる独自の価値があると判断した。内容も1965(昭和40)年当時の明星大学の状況や雰囲気、見学会における説明内容、教員の対応、見学後の感想などが率直に綴られていて、資料的価値があると判断して掲載した。

なお、文中に大学についての説明者は「副学長先生」とのみ記され、氏名が記されていないが、これは当時の副学長児玉三夫である。

### (3)『履修の手引 一昭和40年度一 明星大学人文学部』

『履修の手引』からは、「Ⅰ. 人文学部の教育目的」・「Ⅱ. 人文学部の組織と性格」の全文と、「Ⅲ. 学習案内」の一部を掲載した。

前稿(2)で掲載した理工学部の『履修の手引 昭和39年度ガイダンス説明資料』には創設時であって未確定の項目があったためか、十分説明されていない部分があったのに対して、本稿に掲載した【資料3】『履修の手引 一昭和40年度一 明星大学人文学部』では「学習案内」以下の説明がより具体的に記されている。前年度の「学習案内」では各年次の領域区分ごとの科目数と一般教育科目・外国語科目の科目名のみが記され、2年次以降の科目名は記されていなかったが、今年度の「年次別授業科目履修標準」では具体的に科目名が記され、「各学科別専門教育科目」では年次配当・必修選択の別は記されていないものの、各学科の専門教育科目名が記されている。この資料によって、人文学部各学科創設時の教育内容を知ることができ、教育のあり方も推測することができる。さらに、【資料1】に記載された各科目の担当教員と照合することによって、より具体的に創設当初の教育の実態を知ることができる<sup>6)</sup>。

## 2. 人文学部創設の意図と教育理念

### (1) 人文学部創設の意図

【資料1】の「明星学苑の沿革」においては、学校法人明星学苑創立40周年を記念して私学独自の一貫教育の完成をめざして「総合大学」の創設を意図したこと、しかし、その中でも科学技術の振興という国家的要請に沿って理工学部の創設が先行したことが記されている。ここから、学校法人・理事会・理事長としては大学創設を志した時点から文科系・社会科学系学部を創設し、総合大学をめざす意図を持っていたと理解することができる。

【資料1】の「明星大学 理工学部・人文学部の設立について」においては、「日本の今後の発展のためには、人文科学並びに社会科学系学問の側面よりの融合協力」が必要なこと、産業や文化、政治・経済を進展させるには、「『人間』形成・人間の相互理解の問題が社会進歩の原動力である」ことを基礎的な考え方とし、具体的には、「世界的視野のもとに人間形成、人間探究、人間相互理解の道を開拓すること」が必要であると示されている。ここに人文学部、英語英文学科・社会学科・心理教育学科を創設する最も基本的な意図があると理解することができる。

### (2) 人文学部の教育理念

人文学部の教育目的は【資料3】の「人文学部の教育目的」に記されているが、「世界的視野のもとに人間形成、

人間探究、人間相互理解の道を開拓することが必要であるという基本的な意図を基礎として、「広い視野に基礎を置いた確固たる学問的知見と強い道義心を持ち、しかも、躍進する実社会の要請に十分適応できる技能と資質を備えた人物の養成にあたる」と記されている。この教育目的には、学校法人明星学苑の明星実務学校創設以来受け継がれている伝統的な教育理念である「学問的知見と道義心」を持ち「社会の要請に適応しうる人物の養成」という考え方が反映されていると理解することができる。

各学科の教育理念については、基礎的・理論的な教育研究と実践的・応用的な教育研究の両者を掲げていることが基本的に共通していると理解することができる。この点についての各学科の記述を見ると、英語英文学科においては「アカデミックな英米の文学、語学」の教育研究と「英語の技能的方面」の訓練、社会学科においては社会を「学問的に研究し、その根本理論を明かに」することと「社会の諸問題を討究し」「応用的実際の方面にもすぐれた活動をなし得るよう」にすること、心理教育学科は「心理学と教育学の領域の融合した形の学科で」「理論研究の面でも実践指導の面でも共通した課題が非常に多い」との認識の上に、心理学専攻においては「基礎的研究を重視する半面、応用的臨床的研究にも十分な成果をあげられるように」、教育学専攻においては「基礎的・理論的研究を重視するが、実験的応用的方面にも力を注ぐ」と記されている。

また、学科によって内容は異なるが、「少人数のグループ学習」の実施、「実証的に討究する方法の習得」、「実験・演習の実施やテスト・検査・測定方法の習得」をめざすなど学科の教育理念を適切に実現するための教育方法についても記されている。

## おわりに

今回掲載した資料を検討した結果として、学校法人明星学苑・明星大学は1965(昭和40)年度に人文学部1学部3学科(英語英文学科・社会学科・心理教育学科)を創設したが、これは1963(昭和38)年の明星大学創設計画の中で総合大学の創設を意図したことを実現したものであり、人文学部の創設にも明星学苑の伝統的な教育理念が基礎となっていた。人文学部の創設は、日本の発展のために人文科学・社会科学系学問の協力が必要であり、より具体的には社会進歩のためには人間形成・人間の相互理解が推進力となるとの考えにもとづくものであって、学科構成にもその考え方が反映されていたと理解することができる<sup>7)</sup>。

この後1966(昭和41)年度に人文学部経済学科が、1967(昭和42)年度に通信教育部が創設されるが、本稿において取り上げた1965(昭和40)年度に1991(平成3)年度まで続く2学部体制という明星大学の祖型<sup>8)</sup>が実現したと考えられるが、その当時の状況について明らかにすることができたと考えている。

(2022年9月30日稿・続稿予定)

## 【注】

- 1) 【資料】【解説】「明星大学創設の意図と教育理念」(1) 創設前の資料(『明星一明星大学明星教育センター研究紀要』第11号、2021年、所収) 21～32頁、「同(2) 創設第1年度、1964(昭和39)年度の資料」(『同』第12号、2022年、所収) 20～32頁
- 2) 心理教育学科については資料によって「心理教育学科」と「心理・教育学科」の表記が混在している。
- 3) 『体験教育』第272号、1965(昭和40)年1月、5頁
- 4) 『体験教育』第271号、1964(昭和39)年12月、8頁
- 5) 学事報告を担当した者の氏名は記されていないが、前稿に掲載した1964(昭和39)年度の例から、副学長児玉三夫と推測される。なお、資料には明記されていないが、この年度の入学式は、会場の都合から学部・学科によって2回に分けて行われた。
- 6) 【資料1】『明星大学 理工学部 人文学部 =1965=』に掲載された教員名については、実際には就任しなかった教員もあることから掲載を省略した。資料によれば、創設時の各学科主任教授は、英語英文学科 百瀬甫、社会学科 銅直勇、心理教育学科 飯田晃三と記されている。
- 7) 学校法人明星学苑は当時明星実務学校創設以来40余年の私学教育の実績があり、独自の教育理念を持っており、それらの実績・理念と心理教育学科の創設やその理念との間に何らかの関係があるのではないかと考えることは可能であるが、現在ま

でのところ解題筆者にはそれらに言及した資料を見出すことができていない。この点はさらに解明すべき課題であると考えている。

- 8) 1992(平成4)年度に青梅校を開校し、情報学部(電子情報学科・経営情報学科)・日本文化学部(言語文化学科・生活芸術学科)を創設するまで、この体制が続いた。

**【付記】**

1. 明星教育センターが収蔵するきわめて多くの資料の中から、一連の本稿に掲載した資料を探索、選択、提供されたのは全て学苑・大学企画局学苑連携推進グループ(元:明星教育センター)長谷川倫子学芸員の尽力による。明記して、感謝の意を表します。
2. 本稿作成について参考文献を利用したが、前2稿と共通することから記載を省略したことを、ご了解いただきたい。
3. 本稿は歴史的研究と考えて全ての人物の敬称を省略したことを、ご了解いただきたい。